

令和五年十月吉日初版作成

今を真剣に生きるには

高嶋善三郎

目 次

- 今を真剣に生き抜くとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 本心を自分のものにする方法・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 守護の神霊の働きの有り難さ・・・・・・・・・・・・・・ 5

お 願 い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウエイブサイ
ト『白光北陸』のブログ欄に掲載しております。

より分かるやすくするため、感想があれども、お聞か
せ頂きたい。

次の連絡先をお願い致します。

（スマホ） 09033466619

（アドレス） zensan@peach.ocn.ne.jp

今を真剣に生かすとは

「真我一体観、自他一体観を体験として表現してゆく」の中に、今を真剣に生かすという項がありますが、その点について、もう少し詳しく説明してゆきます。

そこでは、「今を真剣に生かす」ということは、今が永遠にうつらなくなってしまふもの、信じて自己の想念、行動を今の一瞬、一瞬に生かしてゆくものは、輝く神性の具現者であり、栄えある真我一体の完全な人間像を築き上げ得るのである。例えいかに悪しき過去世をもつものであろうと、今を生かせることに真剣であれば、過去世の悪行は善行に転回されて、生かされてゆく。故に今の一分一秒はゆるがせにできない。今を無駄に消費するとは、生命を殺し、死なせてしまふことになる。」「『生命光り輝く』と云わむこと也矣。

今が永遠にうつらなくなってしまうもの、信じて己の想念、行動を今の一瞬、一瞬に生かしてゆくとは、どういふことをいわわっているのでしょうか。

『人間と真実の生き方』にあるように、自分が宇宙神の一筋の光であることを信じて受け入れ、この世の中すべての苦悩は、人間の過去世から現在に至る誤った想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿であり、いかなる苦悩といえど、現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難の中にあっても、自分を赦し、人を赦し、自分を愛し、人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつけてゆき、真の救いを体得することです。

この生き方は、過去多くの実践した方々により、より実行しやすくなっていることに気付きます。

真の救いの象徴である悟りが遠い存在からとても身近な存在になっているのです。

二十世紀において、真の悟りを得ることは、極めて難しく、直霊と合体された五井先生によって開かれた世界平和の祈りによって徐々に悟りを開かれた方々が現ははじめ、2003年から始まった宇宙究極の1筋の光を降ろす神事が始まり、7年後に地球人類の叡智のチャクラ

と言われる第六チャクラが開かれることにより、真の悟りへの道はさらに近い存在になり、神聖復活の印が降ろされると、五次元の扉は開かれ、自分が宇宙神の一筋の光であることを受け入れる意識だけで、悟りへの道がひらかれ、あとはこの意識を鉢につえた植物のように水を毎日やることになって育てていけばよいとまでいわれているのです。この意識が大きく育てれば、いままで把われていたことが、少しも気にならなくなるようになるのです。

本心を自分のものにする方法

また、五井先生によって示されている、本心の本質とその働き方を理解することによって本心を自分のものとする事が出来ます

本心については、神聖とも表現されているものです。本心（神聖）とは、大自然の根源の働きをする生命を、その智慧能力で、大調和達成のために生かすきってゆく働きです。この神本来の神聖の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界なのです。

私達が神聖顕現していく最終目的は、「宇宙の神秘、生命の真、善、

美を現わすことだ」と言われています。（如是我聞17）

また本心（神聖）は、私達の肉体人間の外にあるのではなく、チャクラを通して脳天（第七のチャクラ）において、肉体以外の体、つまり幽霊、神と仮に呼んでいる各階層の体につながっているのです。

神霊の階層の心の波動が、そのまま素直に肉体の脳天に伝わってきている心を本心（神聖）と呼ばれています。しかし肉体人間の脳天（第七のチャクラ）が神界以外の階層即ち幽界から伝わってきている波動に蔽（おお）われてしまうと、神霊の心そのままの動きはできなくなるのです。そのような時業想念で本心（神聖）を求めても、本心（神聖）を自己のものとして、つかむことはできない。業想念波動を消滅したところから、本心（神聖）は現れてくるのです。そのためには、常にチャクラを活性化し、脳天を蔽う業想念波動を浄めておくことが必要です。

また本心（神聖）の働き方は、私達の意識行動と密接につながっているのです。私達が何を選択するか、また何に意識を集中するかによって、それらを実現するために瞬時にエネルギーを注いでくれることを知ることです。良い選択等をすれば、いい結果が実現されますし、一方神のみ心から離れた選択等をすれば、不調和の姿をそのまま現わします。

守護の神霊の働きの有り難み

「真実の生き方」をより円滑に実践していく上で、守護の神霊の働きを認め、その援助を得ることは、不可欠です。

五井先生は、世界で初めて私達ひとり一人に専属して守護霊、守護神が存在されていることを明らかにし、私たちが平易に安心立命の道を歩めるように道を開いて下さっています。

『神と人間』によれば、分霊が霊界で魂魄として、また肉体界で魂魄として宇宙神の意志そのものの世界とするため、活躍していたが、肉体の業因縁の中にもあそばされ、自己の本性を見失った過程にあって苦悩している分霊を救い、肉体界を浄め、宇宙神の創造を現象界に写し出すとして分霊たちに守護霊、守護神をつけられたのです。

各直霊は、自己の光を分けて、分霊たちの守護神となし、守護神は、最初に肉体界の創造にあたった分霊たちを、業因縁の波から救い上げた。この分霊たちは、守護霊となり、守護神に従って、ひきつづき肉体界に働く後輩の分霊たち、いわゆる、子孫の守護にあたることになった。そして分霊の経験の古いものから、順次守護霊になり、遂には各人に必

ず一人以上の守護霊がつくまでになって、今日に及んでいる。

原始時代より、闘いに続く戦い、苦悩にひきつづく苦悩の歴史が繰り返されておられ、現代にいたってもまだ、戦争への恐怖、老病貧苦の地獄絵の時代はつつかんとしているが、この間種々と人類に貢献せる聖者、偉人が数多あったことは、分霊である人間が、守護神、守護霊の働きを悟り、これらと協力して、活躍したことを物語るものである。この力は精神文化、物質文化の発展に寄与することが大きく、守護神、守護霊と、分霊の交流がさらに著しくなってくれば、この世界が真の発展に進むことになるのであると、説明されています。

また誤てる想念(業生)が消えてゆくことに、実は守護霊、守護神と大神様が大きくかかわっているのです。

守護霊守護神は、私達が生まれる前からズーッと見守り守護していただくされており、守護霊は霊界、幽界、肉体界と三界、を通して働ける者なので、幽界において、できつつある運命、あるいはすでにできあがって、時間の経過につれて自然に肉体界(現界)の運命として現われぬように自分が引き受け、修正しているのです。修正するのは現わす業想念(誤てる想念)の90%で、後10%は本人の魂を磨くため業想念(誤

てる想念(を)を夢などにして現わすのです。現われれば消えるのが想念の性格であるので、守護霊が夢や大難を小難にして現わし、消してくださいといっています。

宇宙神の意識である大調和の世界を現わしていける魂を育て磨くために、先の記述のとおり、一度にたくさんものを出したら、苦痛が激しくいびれてしまうから、少しずつ出して消してゆく。人間側に力が出れば、それだけのものを出してゆく。そして、気がつかないうちに出してしまって、苦しみ少なく、この一生を過ごしていけるようにしてくれているのです。(白光誌1977年2月号17ページ)

守護霊守護神に守護してもらうには、守護霊守護神に想いを常に向け感謝することが大切です。

消えてゆく姿の先は、神様のみ心の中であり、神様にすべてをお任せしてしまっているのは、消えてゆく姿とおなじであるが、ただ消えてゆく姿といっても、神様がないと消えてゆかない。守護霊守護神があり、大神様がないと消えてゆかない。

なぜ消えてゆかないかというと、三界をグルグル横に回っていて、あいつは憎らしい奴だ、ああいけないのだと思っても、ただそれだけでは

その想いは消えない。

それをどうするかというと、守護霊さん守護神さんありがとうございますとやるのと、今まで横に回っていたものが、縦にスッと上に、神様の中へ入ってそこで消される。そうすると、その回っているものがだんだん少なくなる。消えてゆくに従って、本心の光がどんどん開いてゆくのです。(白光誌1977年2月号17ページ)

守護霊守護神のそれぞれの役割を区別し、守護霊守護神の役割を大神様の中に入れてゆくエレベーターとして説明されています。

神のみ心の中に入れてゆくにしても、梯子あるいはエレベーターがないと入れない。今までの宗教というのは、祈りは教えるけども、大神様の中に入れてゆくエレベーターがないのである。そこで私は天と地をつなぐもの、光のエレベーターを発表した。天と地をつなぐものは何かというと、地の方に深く強くつなぐものは守護霊だし、天の方に深くつなぐものは守護神なのです。(白光誌1977年7月号500ページ)

守護霊、守護神の働きを常に認識し、感謝することによって、守護霊守護神の働きを自分のものとしていくことが私達の天命を果たしていく上で、いかに大切であるかを知るべきでしょう。